

和歌山県感染症報告<速報>

Wakayama Infectious Diseases Report (WIDR)

2012年第49号(週報・月報合併号)

2012年第49週(12月3日~12月9日)、月報11月

◆ ◆ 注目すべき感染症の動向 ◆ ◆

一 感染性胃腸炎 : 和歌山市、海南、岩出保健所管内で患者報告数が多い! 一

感染性胃腸炎は、細菌またはウイルス等による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。毎年、秋から春先にかけて患者報告数が多く、この時季はノロウイルスやロタウイルスが主な原因となっています。

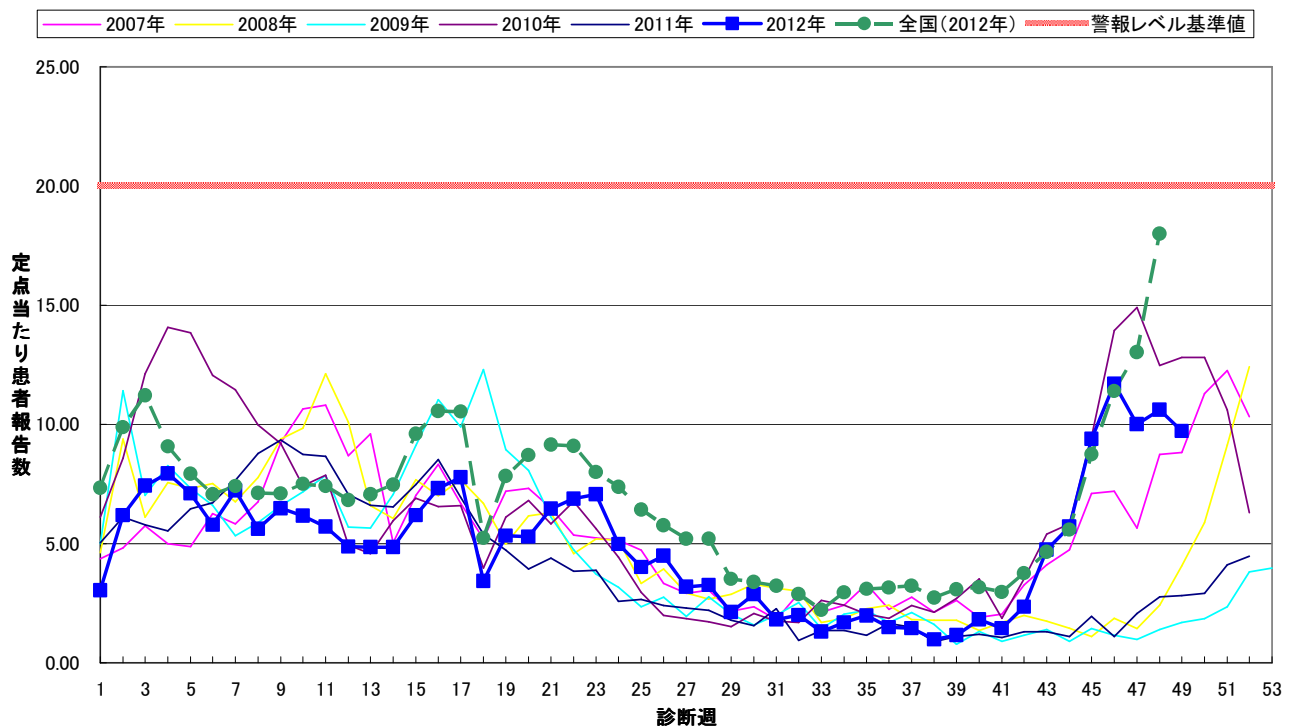
県全体の定点当たり患者報告数は、9.71人(前週:10.61人)と若干減少していますが、過去5年間の同時期と比較して多くなっています。今シーズンは、2007/2008年、2010/2011年シーズンと同様に早い時期から患者報告数が増加しています。

一方、全国の第48週の定点当たり患者報告数は18.00人(第47週:13.02人)となっており、患者報告数は依然増加傾向にあります。

患者報告数が多いのは、和歌山市保健所管内(13.89人)、海南保健所管内(23.00人)及び岩出保健所管内(12.00人)で、この3保健所管内では警報レベルとなっています。特に、海南保健所管内では、先週の11.00人より大幅に増加しています。

ノロウイルスの感染力は非常に強く、感染経路としては食中毒としての経口感染や患者との接触による接触感染、患者の嘔吐物や便からの飛沫感染等があります。感染予防には手洗いの励行、患者の嘔吐物を処理する際は塩素系漂白剤等を用いて適切な処理をすることが大切です。

感染性胃腸炎(和歌山県全体)



— **RSウイルス感染症** : 御坊保健所管内での報告が多い! —

RSウイルス感染症はRSウイルスを原因とする呼吸器感染症で、2歳までにほぼ100%の子供が初感染を受けるとされています。また、生涯にわたり感染を繰り返す感染症です。

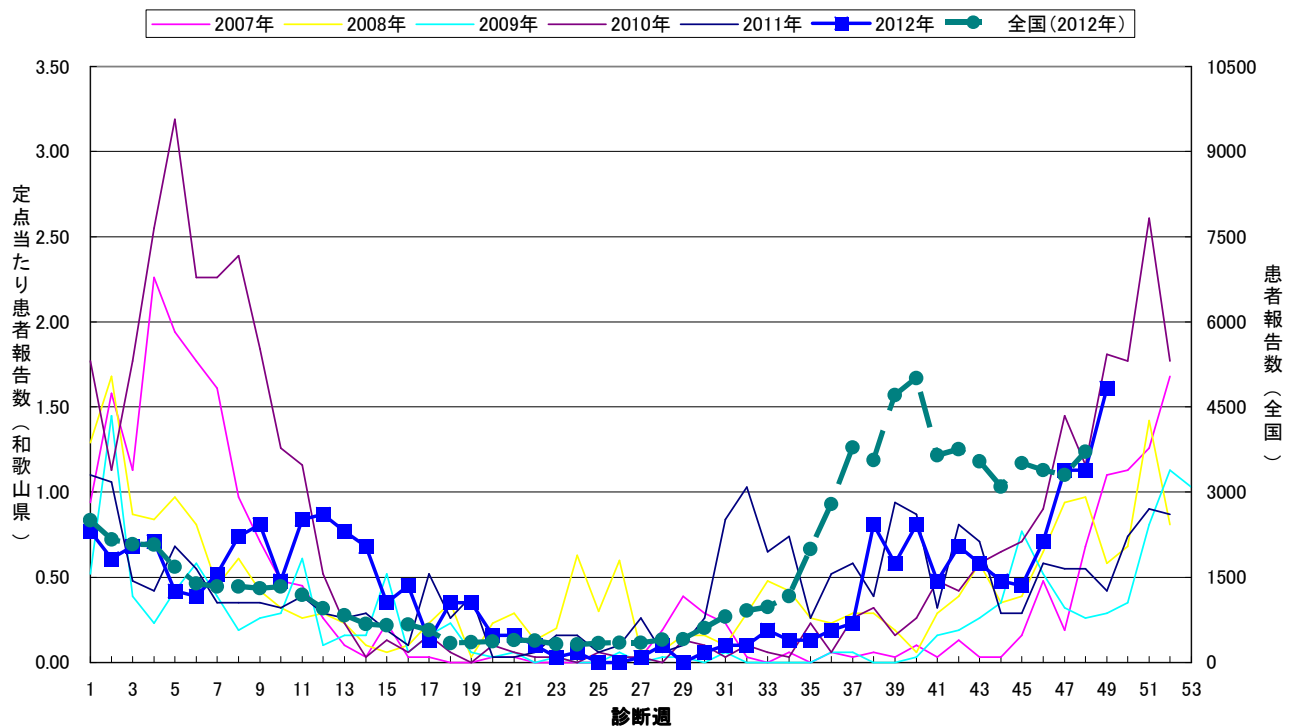
県全体の定点当たり患者報告数は、1.61人（前週：1.13人）と前週より増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い状況です。特に、御坊保健所管内の定点当たり患者報告数が10.00人となっており前週（6.00人）よりも多くなっています。

全国約3000の小児科定点医療機関から報告された第48週の患者報告数は、3712人（第47週：3303人）となっています。

今シーズンは10月初めに一度患者報告数の増加が見られましたが、この疾病は例年、年末から2月にかけて流行のピークとなることが多いため、今後の動向に注意が必要です。

感染予防策としては、手洗い、うがいが基本です。また、せきの症状がある場合はマスクを着用する等、せきエチケットを心がけてください。

RSウイルス感染症



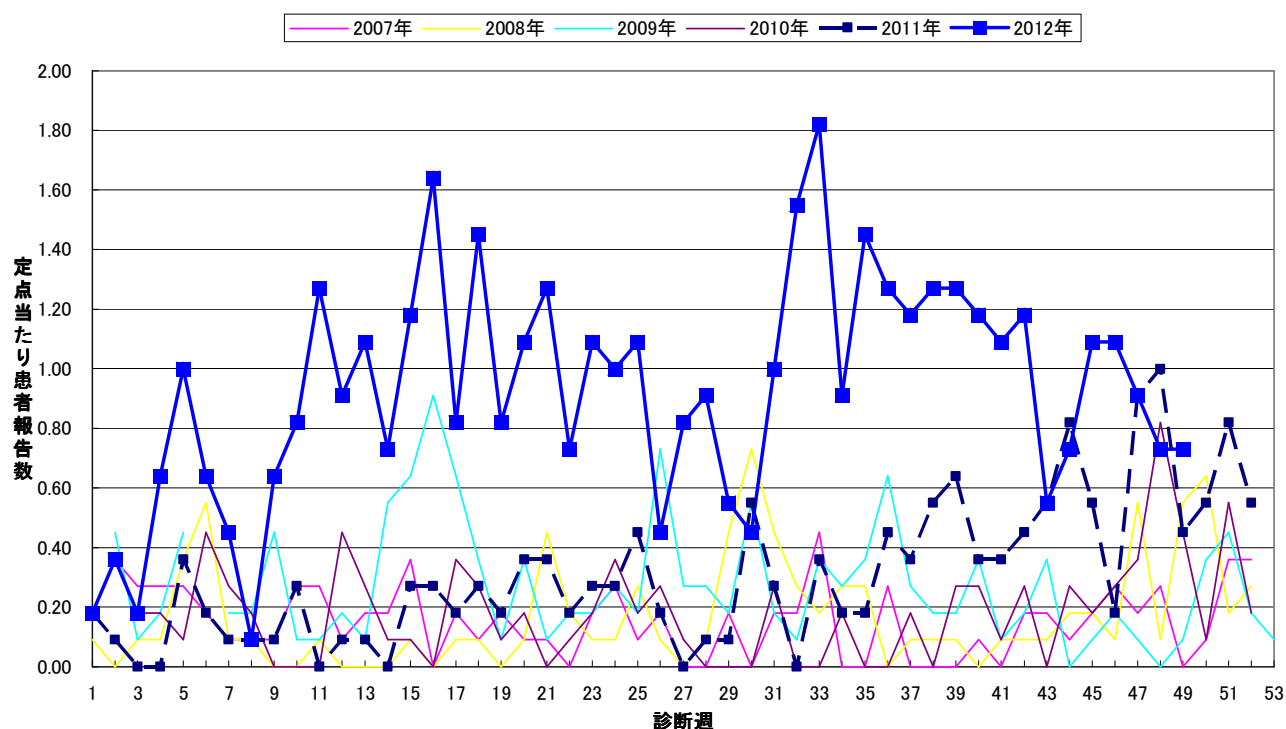
— **マイコプラズマ肺炎** : 患者報告数は依然多い! —

県全体の定点当たり患者報告数は0.73人（前週：0.73人）と横ばいですが、例年と比較して多い状況が続いています。

全国の第48週の定点当たり患者報告数は1.20人（第47週：1.06人）で、東日本を中心に報告数が多くなっています。

感染予防策としては、インフルエンザと同様でうがい・手洗いの励行や普段からの健康管理が大切です。

マイコプラズマ肺炎(和歌山県全体)



－ 水痘 : 田辺保健所内で注意報レベルを超える状況が続く －

田辺保健所管内の定点当たり患者報告数が5.00人(前週:4.00人)と、3週連続で注意報レベル基準値を超え、今後の動向に注意が必要です。

県全体の定点当たり患者報告数は1.71人(前週:1.77人)と、過去5年間の同時期と比較して同程度となっています。

◆◆ これから注意が必要な感染症 ◆◆

－ インフルエンザ －

現在のところ、和歌山県では患者報告はまだほとんどありませんが、例年は12月頃から患者報告数が増え始め、1～3月にかけて流行のピークを迎えます。

全国の第48週の定点当たり患者報告数は0.31人(前週:0.22人)で、今のところ大きな流行はまだ見られません。感染を予防するために、うがい・手洗いの励行や、マスクの着用等による咳エチケットを心がけてください。

○ 定点把握感染症の警報・注意報レベル基準値について

疾病	警報レベル		注意報レベル	疾病	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値		開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10	伝染性紅斑	2	1	－
咽頭結膜熱	3	1	－	百日咳	1	0.1	－
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	－	ヘルパンギーナ	6	2	－
感染性胃腸炎	20	12	－	流行性耳下腺炎	6	2	3
水痘	7	4	4	急性出血性結膜炎	1	0.1	－
手足口病	5	2	－	流行性角結膜炎	8	4	－

基準値はすべて定点当たりの報告数です。注意報の「－」は対象としないことを意味します。

◆◆ 全数把握感染症について ◆◆

<届出状況>

- 1) 当該週に診断された感染症のみ掲載しています。
 - 1類感染症：報告はありませんでした。
 - 2類感染症：結核3名
 - 3類感染症：報告はありませんでした。
 - 4類感染症：報告はありませんでした。
 - 5類感染症：後天性免疫不全症候群1名、梅毒1名

- 2) 第1週から当該週までに診断された患者報告数を掲載しています。

疾病名	報告数
結核	313
細菌性赤痢	1
腸管出血性大腸菌感染症	18
A型肝炎	1
つつが虫病	4
デング熱	1
日本紅斑熱	24
レジオネラ症	2
レプトスピラ症	1
アメーバ赤痢	2
急性脳炎	1
クロイツフェルト・ヤコブ病	1
後天性免疫不全症候群	8
梅毒	6
破傷風	2
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1
風しん	10

◆◆ 5類定点把握感染症（週報）について ◆◆

<各保健所の警報注意報レベル状況>

警報レベル

感染性胃腸炎（和歌山市、海南及び岩出保健所管内）

注意報レベル

水痘（田辺保健所管内）

<保健所別の患者報告数（和歌山県）>

(-:患者報告がない、…:保健所管内に定点が存在しない)

		和歌山市	海南	岩出	橋本	湯浅	御坊	田辺	新宮	串本
インフルエンザ	報告	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	報告	12	-	9	-	2	20	5	2	-
	定当	1.33	-	2.25	-	0.67	10	1.25	1	-
咽頭結膜熱	報告	-	-	7	-	-	1	-	-	-
	定当	-	-	1.75	-	-	0.5	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告	8	1	4	2	2	-	3	5	-
	定当	0.89	0.5	1	0.5	0.67	-	0.75	2.5	-
感染性胃腸炎	報告	125	46	48	27	20	2	22	8	3
	定当	13.89	23	12	6.75	6.67	1	5.5	4	3
水痘	報告	7	3	10	4	8	-	21	-	-
	定当	0.78	1.5	2.5	1	2.67	-	5.25	-	-
手足口病	報告	-	-	-	3	1	-	-	-	-
	定当	-	-	-	0.75	0.33	-	-	-	-
伝染性紅斑	報告	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	0.11	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん	報告	6	1	3	-	2	-	-	-	-
	定当	0.67	0.5	0.75	-	0.67	-	-	-	-
百日咳	報告	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	報告	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	報告	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	0.11	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	報告	-	…	…	…	…	…	-	…	…
	定当	-	…	…	…	…	…	-	…	…
流行性角結膜炎	報告	-	…	…	…	…	…	-	…	…
	定当	-	…	…	…	…	…	-	…	…
細菌性髄膜炎	報告	-	…	-	-	-	-	-	-	…
	定当	-	…	-	-	-	-	-	-	…
無菌性髄膜炎	報告	-	…	-	-	-	-	-	-	…
	定当	-	…	-	-	-	-	-	-	…
マイコプラズマ肺炎	報告	-	…	1	-	-	1	6	-	…
	定当	-	…	1	-	-	1	3	-	…
クラミジア肺炎	報告	-	…	-	-	-	-	-	-	…
	定当	-	…	-	-	-	-	-	-	…

<院内感染症の動向>

11月の定点当たり患者報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が3.27人、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症が0.09人、薬剤耐性緑膿菌感染症が0.18人となっています。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症で患者報告数が最も多い年齢階級層は、70歳以上で全体の約78%となっています。

【11月の年齢階級層別の患者報告数(和歌山県)】

		総数	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳～
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告	36	2	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	1	2	-	28
	定当	3.27	0.18	-	-	0.09	-	-	-	-	-	-	-	0.18	0.09	0.18	-	2.55
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	定当	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.09
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	定当	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.18
薬剤耐性アシネトバクター感染症	報告	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	定当	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

和歌山県感染症情報 (WIDR) 2012 年第 49 号

発行日：平成 24 年 12 月 13 日

発行元：和歌山県感染症情報センター

(和歌山県環境衛生研究センター内)

和歌山市砂山南 3-3-45

TEL 073-423-9570

E-mail e0318011@pref.wakayama.lg.jp

URL <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031801/kishukko>

(お問い合わせ先)

和歌山県福祉保健部健康局健康推進課

和歌山市小松原通一丁目1番地

TEL 073-441-2657

E-mail e0412003@pref.wakayama.lg.jp

この WIDR は感染症新法に基づいて実施されている感染症発生動向調査から作成しています。ここに掲載した情報はあくまでも速報であり、今後の調査結果で訂正される可能性がありますのでご注意ください。